

授業科目 住環境論

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	看護
入江 建久		開講時期	前期	必修・選択	選択
		単位数	1	時間数	15
<概要> 人生の大半の時間を過ごす「住まい」を、与えられたものとして受身に捉える見方から脱却することが、健全な住生活を築く第一歩である。その上で、健康で快適な生活を保障する住居の、環境的側面のあり方について考える。在宅看護、在宅介護についても、単純なバリアフリーからトータルな住環境の構築へと視野の拡大を図る <一般目標：G I O> 住居がQ O Lを支える基盤であるという、基本的認識の上に立ち、健康で快適な住生活を保障する環境的側面を理解する。					
【<行動目標：S B O>】 1. 住まいが生活の全てを支える基盤であることを理解できる。 2. 基本的な人権としての住まいの位置づけを説明できる。 3. 生涯の8, 9割を過ごす住まいの貧困が、即住環境の貧困に結びつき、健康を阻害する一大要素となることを理解できる 4. 室内空気汚染問題について、その諸相とシックハウス問題、アレルギー問題等との関連を説明できる。 5. 高気密化した現代住宅の特徴と、「通風・換気」の重要性を説明できる。 6. 温熱環境について、わが国の気象条件、住居の温熱条件の健康影響、省エネルギー問題を理解できる。 7. 音環境について、騒音問題や「聞こえ」の衰えへの対処を理解できる。 8. 光環境について、日照問題や、視覚の衰えへの対処を理解できる。 9. 水環境について、給排水設備の概要や湿度問題を理解し、微生物感染問題も関係することを理解できる。 10. 高層居住問題等、現代のコミュニティの特徴と子どもや高齢者の健康問題を理解できる。 11. バリアフリーとユニバーサルデザインの差異を理解できる。 12. 「住まい」に健康に住まうためには、つくり手のみでなく、医療、福祉関係者とのネットワークづくりが重要であることを理解できる。					
回数	授業計画又は学習の主題			学習方法・学習課題	
1	1. 住居とは	5	5. 音・光環境	講義：入江	
	1) 住の位置付け		1) 騒音問題と音響計画		
	2) 住まいは人権		2) 聞こえの保障		
	3) 国民生活時間調査より		3) 日照問題		
	4) 阪神淡路大震災の教訓		4) 視覚の保障		
2	2. 空気環境		6. 水環境		
	1) シックハウスシンドローム		1) 給排水・衛生設備		
	2) ハウスダストとアレルギー問題		2) 水蒸気・水と微生物		
	3) 微生物汚染				
3	3. 痛風・換気	6	7. コミュニティの形成		
	1) 痛風、換気の意味		1) 向う3軒両輪		
	2) 温冷感と冷暖房		2) 高層居住の諸問題		
	3) 省エネルギーと地球環境		8. バリアフリーとユニバーサルデザイン		
4	4. 温熱環境	7	9. 住環境論総括		
	1) 日本の気象の特徴		1) A D L、Q O Lと住居		
	2) 温冷感と冷暖房		2) 関係者のネットワーク		
	3) 省エネルギーと地球環境				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)		入江建久：健康に住まう知恵、2002、晶文社、(1500円＋税)			
参考書		早川和男：居住福祉、岩波新書、1997、(640円＋税) 古瀬 敏：建築とユニバーサルデザイン、オーム社出版局、2001、(1800円＋税) 日本建築学会編：高齢者のための建築環境、彰国社、1994、(2825円＋税)			
その他の資料		プリント ビデオ教材等適宜			
【評価方法】		【履修上の留意点】 履修前から「住まい」のあらゆる面に関心を向けはじめておいてください。今の住まいで満足か―どのあたりに住みたいか―家賃は高くないか―一日あたりはよいか―掃除はしやすいか―風呂は？トイレは満足か―ふとんがよいベッドがよいか―騒音がうるさくないか―ペットが飼えるか―実家の間取りが描けるか―隣の芝生は美しくみえるか―将来高層マンションに住んでみたいか―隣近所の人と挨拶できるか、しやすいか―等々			
レポート2回(第3・6回各終了時出題)30%					
学期末筆記試験50%、授業参加・態度20%					